

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立紀北工業高等学校 校長名： 神藤 恭光

【目指す学校像】学習活動を通して個人の能力を充分伸張させ、勤労愛好と協同一致の精神を育成し、「知」「徳」「体」のバランスのとれた生きる力を身につけ、社会に対する適応力のある人材を育成する学校。

【育てたい生徒像】「地域と時代に求められる人材育成」をスローガンとして、産業技術人として肝要な合理的、科学的、創造的精神を最大限に伸ばし、正義と責任、男女平等、自他の敬愛と協力を重んじ、将来の生き方や在り方を探求することが出来る、有能で誠実な産業人として心身ともにたくましい生徒。

学校評価の公表方法

学校運営協議会等で取組を説明し、意見をいただくとともに、ホームページ等により評価結果等を公表する。さらに地域や保護者等に対して、分かりやすく、より広く公表できるよう努める。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）						
番号	計画・取組				評価（3月）	
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況
1	授業の充実・改善を行い、主体的な学習習慣と確かな学力の定着を図る。	B	研究・公開授業に積極的に取り組む。また、研究協議を実施し、授業改善への意識向上を図る。	教員間で自主的に「授業づくり」を学び合う意識を高め、学期に1回は教員間で参観授業を行い、日常的に授業改善や工夫を行うことができたか。	C	学期に1回以上、教員間で参観授業を行い、日常的に授業改善や工夫を行う
			生徒が主体的に学び、「分かった」「できた」「考えた」を実感できる授業（ICTの授業活用等、様々な授業手法を積極的に活用する）を構築する。	授業のねらい、評価基準を明確にし、理解しやすい授業展開ができたか。また、各教科において評価基準の見直し、生徒へのフィードバックができたか。	B	1年間を通じて、研究授業の実施ができ、生徒の主体的な学びに繋がっている
			特別支援教育の観点をはじめ、多角的な支援体制を構築する。 生徒の行動変容「良い言動」が増えるように支援を考える。	生徒理解を深めるとともに、生徒の情報共有を行い個々の生徒に対応できたか。	B	授業評価の結果を元に授業改善を進めている
2	基本的生活習慣を確立させ、心身の成長と規範意識の向上に努める。	B	登校指導、校門指導、担任と副担任によるSHR時の身だしなみ指導、下校指導などを年間通して行う。	個々の生徒に対し組織的に粘り強い指導ができたか。また、問題行動を繰り返す生徒の割合が昨年度より減少したか。	B	教職員の共通理解のもと組織的に粘り強い指導を進めている
			教科指導や教育相談など、様々な機会に生徒指導に取組、規範意識や人権感覚の向上を目指す。	すべての教育活動を通して、規範意識や人権感覚を身につけることができたか。	C	より一層、関係機関との連携を高め取組を進めている
			支援を必要とする生徒や保護者等に対し、各科を中心に組織的な支援や対応を行う。各学年を中心に、ケース会議を持ち生徒の情報を共有する。	各科を軸に、直接的・間接的な支援ができたか。また、外部の関係機関とも連携できたか。	A	外部機関と連携を密に取り、組織的な支援や対応をする
3	職業意識の涵養を図るため、継続的に計画された「キャリア教育」の充実に努める。	B	生徒が自身の生き方In方を模索する中で、進路ガイダンス・キャリア講演会等の実施により、進路目標を持たせ、進路実現に向けた指導や準備を推進する。	進路意識向上に向けた個人面談に年間3回以上取組み、目標達成のために個別支援ができたか。	B	学校幹旋就職内定率100%達成、第1志望企業の内定をめざす
			「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」を積極的に推進し、地域産業を担うリーダーシップを発揮できる人材育成を目指す。	日々の学習活動・教育活動等を通してリーダーシップが発揮できる人材育成に取り組めたか。	B	校友会の企業説明会から、企業研究を深めることができた
			就職後の会社訪問による激励等、定着率を高める取組を強化する。	個々の生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成できたか。	A	学校運営協議委員による面接指導、1年生全員にインターンシップの実施
4	工業高校として特色ある学校づくりを推進し、地域連携や地域の企業等と連携を密にして、産業を支える人材の育成を図る。	B	地域や社会の発展を担う職業人を育成する。	職業人として必要な資質・能力を育成する学習内容の充実を目指す授業実践ができたか。	B	様々の機会を通じて企業とのづくりを通した連携を進めている
			各学科における、各種資格取得に向けた取り組みを実施する。	各種資格試験取得に向けた補習等を実施し、1つ以上の資格取得ができたか。	B	資格取得に向けた補習を実施、今後、全員が1つ以上の資格取得をめざす
			生徒・教職員が本校の魅力を再発見し、その魅力の発信により保護者・校友会・地域との信頼や連携を深める。	情報発信力の強化により、生徒たちが取組んだ活動が、十分に発信されたか。	A	SNSを通じて、学校の魅力を発信している

学校関係者評価（7月・12月）
○生徒による授業評価アンケート（7月） 授業の改善を考える上で、授業評価アンケートは貴重なデータである。今後の教科指導に活かすため、職員会議でデータを分析し、共通理解を図った。
○学校評価アンケート[生徒]（12月）276名
・本校での学校生活は充実していると思いますか。 思う95%
・本校には、他の学校にない特色があると思いますか。 思う94%
・分かりやすく、充実した授業が多いと思いますか。 思う90%
・本校に入学してよかったと思いますか。 思う91%
昨年度より、高い評価項目が多くあった。 （生徒の意見） 概ね高評価ではあるが、授業、生徒指導、や学校行事に関する運営等、施設の充実において、改善を期待している生徒の意見があった。
○学校評価アンケート[保護者]（12月）167名
・明るく生き生きと学校生活を送っていると思いますか。 思う91%
・他の学校にない特色があると思いますか。 思う95%
・進路指導が適切に行われていると思いますか。 思う91%
昨年度と同様、高い評価項目が多くあった。 （保護者の意見） 概ね高評価ではあるが、特に、よりきめ細かな個々の生徒指導において、改善を期待している保護者の意見があった。
○学校運営協議会 3回の学校運営協議会と学校運営協議委員による生徒の「就職面接指導」と「課題研究成果発表」を通じて、本校の運営方針や生徒の状況を良く理解していただき、学校運営について好評価を頂いた。今後、少子化にともなう本校の在り方や、学校の広報活動、地域連携を通して、地域と社会に求められる人材の育成と地域になくてはならない工業高校を目指していく。